

町政について 今後への思いは



浅見 武志



町長

何ができるかを 考え決めたい

質問 町長としてのこれまでの実績と評価を問う。

答弁 町長 私は、町長就任以来、一貫して、「人口減少対策」と「財政の健全化」を2本の柱に、誠心誠意、公約の実現に向けて諸施策に取り組んできた。

「人口減少対策」では、子育て世代が多く住む本町において、若者のまち離れを防ぎ、若い子育て世代の定住促進や雇用拡大を目指した取り組みを強化し、若い世代が安心して子供を産み育てられる環境整備こそが、人口減少に歯止めをかける最良策であると捉え、そのための施策を最優先に取り組んできた。

具体的な取り組みとしては、文化センター周辺まちづくり事業による移住や定住の促進をはじめ、東部工業団地西地区では進出企業が決定し、高崎玉村スマートインターチェンジ周辺地区の産業団地造成事業に着手するなど、優良な住宅地の提供や

企業誘致による雇用拡大と地域経済の活性化を図ってきた。

また、本町の課題でもある公共交通については、町民の利便性向上のため、「たまりん」をはじめとする路線バスの再編に着手するとともに、群馬県が推進する東毛広域幹線道路のBR T（※1・P9参照）導入事業は、高崎駅や伊勢崎市、太田市へのアクセスの定時性が確保され、玉村町の立地条件を飛躍的に向上させることから、道の駅玉村宿や文化センター周辺に新設する交通ターミナルの接続実現に向けて努めているところである。

新橋建設促進では、都市計画道路と六分前橋線の利根川への架橋について、新橋の必要性についてDVDを作成し、理解を求めてきた。本年度は、前橋市と協力し、国や県に対して新橋建設実現に



期待される利根川新橋

向けた活動をより一層活発化していく。

質問 今後に向けて今の気持ちをお聞かせしてほしい。

答弁 町長 町のために何ができるかを考え、決めていきたい。

防火シャッターの 危害防止対策を



石内 國雄



町長

費用や優先箇所を 検討する



危害防止装置つきのシャッター

質問 防火シャッターの閉鎖作動時に体が挟まれる事故が発生している。平成17年には建築基準法施行令が改正され、防火シャッターの閉鎖作動時の危害防止装置の設置が義務付けられた。

公共施設・学校への防火シャッターの設置状況と、危害防止装置の設置状況はどのようになっているか。

また、作動点検や危険性の周知はどうか。

答弁 町長 町の防火シャッター設置状況は、役場庁舎と文化センターにそれぞれ3カ所、小中学校に63カ所設置されている。

閉鎖作動時の危害防止装置は、国の安全基準が改正される前に建築された施設には設置されていないものが多い。文化センターは常に不特定多数の方が利用することを踏まえ必要な箇所には後付けで設置したが、その他の施設は、施設の改修等に合わせて順次対応している。

点検状況については、全ての施設で専門業者による点検を行っているっており、閉鎖作動の確認もしている。

危険性の周知については、防火シャッターの設置位置が分かるよう、床面への表示や張り紙をするなどして周知を図っている。

質問 人命にかかわることだ。施設の大規模改修を待つのではなく、まず対策が必要だ。

答弁 町長 今後、どれくらい費用がかかるのか、優先してやらなければならない場所はどこなのかを検討していきたい。

非常用発電工事の進捗は

質問 防災対策として、今年度予算に計上された役場庁舎の非常用発電機のかさ上げ工事の実施状況は。

答弁 町長 電気配線や電気設備への非常用電源の供給を含め、災害時の避難所となる保健センターへの非常用電源の供給を含め、非常用発電機の移設だけではなく庁舎全体の電気系統を調査した上で対応策を再検討することとした。